

■ 主要科目の特徴 <<診療放射線技術学科>>

①	科目名	疾病の成り立ちⅠ～Ⅳ	
	配当学年・学期	(Ⅰ～Ⅱ)1学年／後期 (Ⅲ～Ⅳ)2学年／前期	
科目の特徴	適切な検査、診療画像情報を提供するためには、正常な人体の構造と機能を理解していることはもちろんのこと、疾病の原因、発生機序、疾病による形態的・機能的変化について正確な知識を持っている必要があります。疾病の成り立ちでは、人体の構造と疾病の成り立ちを理解するため、人体を6つの系統に分類して学習し、最適な画像情報を提供することができ、あわせて高度な読影能力を有する診療放射線技師を目指すための基礎知識を身に付けます。		
②	科目名	診療画像検査技術学Ⅰ～Ⅲ	
	配当学年・学期	(Ⅰ)1年生／後期(Ⅱ)2年生／前期 (Ⅲ)2年生／後期	
科目の特徴	診療放射線技師の関わる画像検査は、疾病に関する多様な情報を得ることができるため、臨床において最も重要な検査の一つとなっています。診療画像検査技術学ではX線をういた画像検査から超音波、MRI検査まで、その基本的特性、原理を理解し、検査対象となる部位、臓器それぞれの撮影および撮影法と、その特徴を学習します。また、画像上に描出される疾患の画像特性についても理解を深め、目的に応じた生体機能の情報を適切に描出する方法を学習し、実践的な知識・技術の習得を目指します。		
③	科目名	臨床画像学演習	
	配当学年・学期	3年生／前期	
科目の特徴	診療放射線技師は単に検査や治療をするだけではありません。正しい検査だったのか、正しく治療が行われているのかという判断は、医療画像を正しく理解していることが前提となります。それは診療放射線技師の業務の1つである「画像診断の補助」に関係します。1年生で解剖学や生理学を、2年生で画像解剖学を学びますが、臨床画像学演習ではX線画像、CT画像、MR画像、超音波画像といった多くの画像を閲覧し、その解説・演習を行い、特に見落とししている部分を学習します。これまで学んだ基礎的な内容をもとに、より実践的な知識・技術の習得を目指します。		
④	科目名	MRI検査技術学	
	配当学年・学期	4年生／前期	
科目の特徴	MRI検査は現代の医療において欠くことのできない画像診断の一つとして確固たる地位を築いています。高い静磁場によるSN比の向上は、撮像時間の短縮や空間分解能の向上をもたらし、データ収集法の進化は、臨床目的に応じた多様な撮像法を生み出しています。また、単に診断装置としてだけでなく医療分野の重要な研究ツールとしての応用も始まっています。MRI検査技術学では、MRIの基礎的な知識を確認しつつ、それをベースとして、さらに技術的視点、臨床的視点において、一步踏み込んだレベルの内容について学び、MRIに関する応用力の育成を図ります。		